

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O171401151		
法人名	有限会社 ウジヤト		
事業所名	グループホーム のぞみ(1階)		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401151-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年には家庭菜園に力を入れて入居者様と一緒に畑を耕し苗を植え一緒に芋掘りを行ったり収穫の楽しみを味わって頂きました。
 コロナの流行で、外出もままならないですが外へ出て身体を動かす事が出来たので喜んでくれました。
 現在は個別支援に力を入れて少人数で温泉等に出掛けたり、自宅に行き庭木の手入れ等行ってもらいました。
 猫は4匹飼っており、アニマルセラピーの役目を果たしてくれています。
 歌が好きな方も多いので、室内ではカラオケの機械を利用しカラオケを楽しんだりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、函館駅より車で20分程離れた静かな住宅街にあり、近くには北大水産学部や大型スーパーマーケット、コンビニエンスストアが2軒ある、生活するには便利な環境に立地している。建物は鉄骨造り2階建ての1・2階部分に計18人の利用者と4匹の猫と一緒にゆったりと暮らしている。当事業所の特筆すべき点は、個別ケアに指向している点を挙げたい。理念の『「わたらしさ」を大切に・・・』を管理者と職員は常に意識し、本人の歩んだ歴史を大切にし、気持ちに寄り添って願いや希望を傾聴し、表出した思いは全職員で検討して可能な限り叶えている。例えば、毎日猪口1杯の晩酌をする、場所やルールを決めて喫煙をする、自宅の庭木の手入れを終えた後に飲むノンアルコールビールを楽しむにしている利用者には職員がそっと見守り支援している。家族との外出も可能で一緒に日帰り温泉に行き、ビールを飲み蕎麦を食べてゆったりと1日を過ごす利用者もいる。また、利用者の生活歴を参考にして、一人ひとりの得意な事を見出し、洋裁や家事、家庭菜園などを役割分担を決めて行い、本人の持っている力を存分に発揮出来るように支援して、理念である『「わたらしさ」を大切に・・・』を実践している「グループホームのぞみ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の入り口やリビングに掲示し、個々で確認しながら実現に向けて取り組むよう心掛けている。又、毎月ユニット理念(目標)を掲げ、事業所理念と合わせて職員が意識を統一ケアに望めるよう取り組んでいる。	管理者と職員は理念である『「わたしらしさ」を大切に・・・』を理解し、具体化して日々のケアに活かしている。パンフレットや事業所内にも掲示し、利用者や家族・外部の人にも事業所と職員の決意を伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ過にて行われていないが、以前は町内会の夏祭りや新年会に参加させて頂いたり、ホームで開催される夏まつりなどに近所の方々や近隣の高齢者施設などに参加して頂くなど、交流の機会を作っていた。	感染症流行策のため、地域との交流は以前のように盛んに行われていないが、農家の方からの新鮮な野菜の差し入れが途切れることがなく、今までの親しい間柄はしっかりと続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ過にて現在は地域の人々と接する機会が少なくなり思う通りには出来ていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過にて緊急事態宣言などもあり運営推進会議は書面にて開催されており、意見等があれば書面で頂いており活用している。	感染症対策のため2か月ごとに書面開催し、行事報告や行事予定、職員の研修参加状況、身体拘束廃止委員会からの報告、毎回テーマを決めて意見やアイデアを集める工夫をしている。議事録は町内会長、地域包括支援センター、行政機関や地域の薬局、家族には「のぞみ便り」と一緒に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や運営推進会議の議事録を渡し市の担当者に事業所の取り組みなどを報告し、アドバイスを頂きながら取り組んでいる。	行政とは困難事例などを相談し、随時アドバイスを受けている。市が主催する研修会にもWeb会議ツールにより参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの禁止行為を正しく理解できるよう定期的に会議などで話し、又、研修などの機会があれば参加し、職員全体へ報告を行い、全体での理解に努めている。夜間は安全面を考慮し、ご家族からの了承を得て、夜8時以降は施錠をしている。	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に勉強会を開催して事例検討や現状の介護内容の検証をし、記録を作成して全職員で共有すると共に運営推進会議でも報告するなど、拘束や抑制のない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行なわれているユニット会議で身体拘束について話し合い、合わせて虐待にあたる行為はないか再確認を行っている。又、3ヶ月ごとに、「身体拘束廃止委員会」を開催しユニット間で情報交換を行い身体拘束にあたる行為について意見交換を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関する研修は介護支援専門員の研修など個別の受講となっており、フィードバック研修などで他の職員への報告を兼ね研修を行っていかなくてはならないが、現状ではまだできていない。また、現在においては制度を活用される方がいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、ご本人や家族にホーム内を見学して頂き、(コロナ過中はリモートにて)理解、納得をして頂けるよう説明をし、契約時には利用料、医療連携体制、入居にあたっての留意事項など、契約書や重要事項説明書に基づき説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に面会時や支払いに来られた時などに、要望等聞いており、月に1度手紙を書き入居者様の様子を報告すると共に、受診報告等電話した時にご家族の要望や意見を話して頂けるような機会をつくり、頂いた意見などはその後ユニット会議などの議題として上げ、改善すべき点があれば速やかに対応できるよう体制をとっている。又、玄関フロア入り口には意見箱を設置している。	利用者の暮らし振りを手紙やメール、動画で報告し、運営推進会議録も送付するなど、毎月利用者の様子が伝わる様に取り組み、発信した情報から要望や苦情を集め、全職員で検討してサービス向上につなげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常やユニット会議で意見や提案を聞き、施設長や社長も出席する管理者会議や代表者会議にて提案している。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを密に図り、忌憚のない意見や提案を聴き、必要に応じて社長や施設長と相談して、調和を重視した風通しの良い事業所づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が定期的な職員とのコミュニケーションにて状況を把握し、年1度個人面談を施設長も参加し3人で行い現状を代表者に報告している。また、希望する研修などに行けるよう配慮し各職員が意欲的に働く事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修ファイルを作り、常に研修の実施など職員全体で共有し自らの希望や代表者や管理者の指示にて研修を受ける機会を作り一人一人の技術、知識の向上に努めている。研修後は発表できる場を作り情報を共有できるようにしている。また、ユニット会議でその時の状況に合わせた勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中数は少ないが研修会などに参加することで同業者との交流する機会がある。他事業所の勉強会へも参加させて頂くことがある。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い本人やご家族に直接会って話を聞かせてもらい、施設の概要などを説明し、どのように暮らしたいかを伺い要望などには応えられる範囲を説明し、不安な事や疑問点については納得できるまで説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、アセスメントと一緒に、ご家族の要望や心配事を聞かせてもらい、一緒に考えていく事で信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約を頂く時点で、お話を伺い、緊急性等の見極めや、待機期間に、どのようなサービスを活用しているか説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、一緒に家事作業等を行い、ご本人が出来る事は積極的に行えるような関わりをし、得意な事などは教えて頂いたり、持ちつ持たれつ関係を築けるよう努力している。又、何かをして頂いた時には、感謝の言葉を忘れずに伝えるよう心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、毎月のお手紙で近況報告行い、何かあった時は、都度電話連絡をし、問題があれば、ご家族と一緒に考えていける体制を取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	10月に入ってからは面会は、予約制で出来る体制で、ご本人が行きたい場所(買い物、外食、温泉、自宅)には、個別に支援していくように徐々に解禁になってきた。	自宅の庭木の手入れや冬支度に行き、ついでに近所に挨拶をする利用者や、親族が集まる時やお盆の墓参り、馴染みの美容院を利用する時には職員が送迎をして、今までの人間関係や習慣が継続できる様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さまで行える、レクリエーションや、他ユニットとの交流の場を作ったり、お互いに出来る事を行う事で支え合って生活しています。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は、ほぼ亡くなった時ではあるが、その後にはボランティア(折り紙教室)で来て下さるご家族もいらつしやる。また、退所後もご家族の方が日めくりカレンダーを継続して持ってきてくれたり、ウエスにどうぞとタオルなど持ってきてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを取り、本人の意向を把握できるように努めています。ご家族からの情報も含め職員間で検討しています。	利用者の歩んだ歴史を大切に、思いや願い、希望、意向を把握して、喫煙や晩酌、競馬なども禁止することなく、本人や家族と事業所が話し合ってルールを決め、理念でもある『わたらしさ』を大切に『した暮らしが出来るように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、ご家族への聞き取りや、本人からの昔話を通して情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者様の状態観察をし、アセスメントを行い、自立への支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者及び職員は、入居者様が、日々より良い暮らしをして頂く為に、ご本人やご家族の希望収集に努めています。又、主治医からの指示等も反映した計画ができるよう、月末に行うユニット会議で職員全体で話し合いを行いながら作成しています。	介護計画は本人や家族の希望を丁寧に聴き、医師の指示、担当者会議で収集した意見を反映した介護計画を作成し、6か月を目途に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、介護計画に活かす事ができるよう、各職員が、連絡ファイルに具体的な内容を記入し共有しています。又、会議等では、それらをもとに検討し、介護計画に活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の団欒やコミュニケーションの中から、入居者様の希望を聞き出すと共に、ご家族との連絡も密に行い、どうすれば対応できるかを職員間で検討し実行に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会等の季節行事に参加したり、買い物に行ったり、施設にて定期的に消防士立会いのもと、避難訓練を行い、地域の方にも参加して頂いています。(コロナ過中はしていない)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医を確認し、協力医療機関等の説明(月1回の内科往診や、皮膚科往診)を行っています。又、利用契約前のかかりつけ医を希望の場合は継続受診ができるよう支援しています。	かかりつけ医は利用前から継続している利用者もおり、通院同行は家族と話し合って病院で家族と職員が合流して情報を共有している。平山医院の内科医師によるオンライン診療や皮膚科の往診も行われ、24時間適切な医療が受けられるように取り組んでいる。	

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、協力病院から看護師が訪問し血圧測定、採血などの健康管理を行っており、その際に入居者様の状態等を伝えアドバイスや受診の指示などを頂いている。又、入居者様の状態に応じた医療機関への受診の支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が決まった際には職員が生活、身体、精神状況を病院側に伝えている。又、定期的に面会に行き病院関係者より入居者様の状態などを確認していたが、コロナ過の中は面会禁止の所が多く面会は出来ていない。早期退院へ向けた相談などをご家族も含め行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「グループホームのぞみ 看取り介護に関する方針」を作成し入居時に説明を行っており、入居時点での御家族の考えなどを聞かせていただいています。又、実際の終末期を迎えられた方への支援として、御家族へ再度看取り介護に関しての説明と同意をいただき、「看取り介護計画」を作成しチーム全体で最後まで安心して充実した日々を送っていただけるよう支援させていただいています。	複数回の看取りを経験しており、終末期ケアについて全職員で早い段階から勉強会や話し合いを積み重ね、また、本人の状態の変化や家族の希望を都度汲み取りながら、適切に対応できるように状況に応じた話し合いを繰り返し行って方針の統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し全職員への周知を徹底している。AEDの設置(2号館)も行ってます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災についてはコロナ前までは消防立ち合いのもと定期的に避難訓練を行っていた。地震、水害等に対する訓練も合わせて行っている。災害や火災時の緊急連絡体制は整え、マニュアルと合わせ日頃からそれらを意識できるよう事務所、リビングと目につくところへ掲示している。	年2回火災と自然災害を合わせた避難訓練を実施して、避難方法や避難経路の確認をしている。食料備蓄は5日分ほどの用意があり、その他にもカセットコンロや各居室に非常灯を備えている。自然災害BCP計画も作成中である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者様ひとりひとりのこれまでの生活や思いを尊重し、常に私達の人生の先輩であるという思いを忘れずに日々支援させていただいております。	利用者の生活歴と家族からの情報を大切に、本人の気持ちに寄り添いながら、接遇やプライバシーへの尊重などを常に心におき、尊厳を重視したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者ひとりひとりの心身の状態、想いの把握に努め、やりたい事、希望を話せるよう環境作りを心掛けている。又、訴える事が困難な方には日々の関わりの中から想いを汲み取れるよう努力し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースを把握できるように日々の関わりを大切にしている。また、入所前の生活スタイル、自宅での生活の様子をご家族に伺い、その人にあった生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容などの対応を行っている(玄関前)。又、行事等の際は女性入居者への化粧などの支援も行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	医療面で食事制限のある方には、本人に説明を行い、納得していただけるよう努めている。また、入居者の出来る事を考慮しながら一緒に食事準備や調理を行い、利用者・スタッフが一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしていただけるよう努めている。	食事は利用者の楽しみであり、可能な限り本人や家族の希望を叶えている。誕生日にはノンアルコールビールで乾杯をしている。大晦日はすしと蕎麦で年越しをし、お正月のお膳は雑煮や筑前煮・赤飯などのおせち料理で彩られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や間食、一日の水分量の把握に努めている。食事内容に関しては献立係りを配置し、栄養のバランスや季節の物を取り入れ日々のメニューを作成している。また入居者一人ひとりの希望を聞き取り、献立に取り入れている。食事、水分量の減少や体重の増減が見られる際は、御家族や医師に相談しながら入居者の状態に合わせ、おかゆ、刻み、ミキサー食等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、定期的な義歯の洗浄にて清潔保持に努めている。また口腔内の異変時には歯科往診に来て頂くなどの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表等を作成し個々の排泄状態の把握を行っている。状態に合わせた誘導や、時間帯での声掛けを行い、トイレにて気持ちよく排泄していただけるよう介護計画を作成している。また、失敗時には本人の自尊心を傷つける事のないよう考慮しながら清潔保持に努めている。	トイレでの排泄を大切に考えており、利用者個人に合わせた支援に取り組み、自立している利用者も安心の為にパッドを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便確認、毎日の体操、個人に合わせて牛乳や野菜、果物、食物繊維の食べ物等排便を促しやすい飲食物を摂っていただいている。又、便秘がひどい方にはかかりつけ医へ相談し便秘薬などの対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後が入浴の時間になっているが、入浴日については利用者様の希望なども確認し、心地よく入浴して頂けるように支援している。又、利用者の体調に合わせ、無理せず入浴して頂いている。	毎日浴槽に湯を入れて準備し、ゆっくりと温まりたい、熱い湯を好むなど様々な希望を受け入れて、入る順番もその都度、臨機応変に支援している。職員にとっても入浴介助は利用者との会話が弾む楽しい時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人や家族から生活習慣(就寝、起床時間や昼寝)を教えて頂き、個々の睡眠時間は職員全体で把握し、不眠の場合はその状況に応じて話を傾聴し安眠できるような促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携先の薬局と居宅管理サービスの契約を行っており、薬の副作用等はすぐに薬剤師と連絡が取れいつでも相談できる体制になっている。服薬の際にはスタッフ同士が声を掛け合い誤薬のないよう都度確認を行っている。また、薬の管理も利用者様の手が及ばない場所へ保管し、内服薬の、紛失、誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、それぞれ得意なこと・出来そうなことを観察し、個々の状態に合わせた家事作業やレクリエーションを行って頂いている。また、年間行事予定を作成し季節に応じた行事を企画し、コロナ禍前のご家族にも参加して頂いていた。又、家庭菜園を行い水やりと一緒に収穫などを行ってもらっている		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望時(買い物、散歩、外食)には出来るだけ希望に沿えるよう職員間で連携し支援を行っている。どうしても希望時に外出できない時は、本人にその旨を説明し、外出の日を決めて理解、納得して頂けるよう心掛けている。	感染症対策の為、活動制限はあるが徐々に近隣の公園で桜を見たり、近郊の山へ紅葉狩りに出かけている。また、散歩も事業所周辺に頻繁に出かけて近所の家の庭の花を愛で、川を泳ぐ魚の群れや鯉を見るなど季節の移ろいを五感で受け止めている。買い物は職員と一緒に近くのコンビニエンスストアへ出かけて、たばこなどを購入している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から希望がある場合はご家族と相談の上、お金を所持して頂いている。買い物の際には、商品の選択やレジでの支払いなどの見守りと一部支援を行いながら、できるだけ本人に行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には、取次の支援や見守りを行いながら、いつでも自由に電話を使用して頂けるよう支援を行っている。手紙に関しては現在のところ郵送の希望者はいないが、ホームに届いた年賀状などは希望があれば本人に読んで聞かせるなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や光の入り方、空調での室温管理など利用者の意見を取り入れ自由に調節できるよう配慮している。また、家庭菜園の水やりや草取り、収穫を一緒に行ったり、リビングの設えに季節を感じて頂けるような工夫をしている。	オープンキッチンを備えた居間兼食堂は大きな窓から程よく陽が入り、開放的な明るい空間となっており、高齢者に合わせて温度や湿度も適切に管理されている。共有空間は季節に合わせた装飾にとどめ、落ち着いた雰囲気の中でゆっくり過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの構造上、一人になれる空間はなく、各居室やリビングにある座敷、又は事務所にて過ごして頂いている。また、食卓での座席や、リビングソファで過ごして頂く際には、利用者同士の相性も考慮し安心して頂けるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やご家族と相談しながら、安心してお部屋を使用して頂くためにも、在宅時に使用していた家具や写真などを持ってきて頂き、居心地の良い空間をつくれるように工夫して取り組んでいる。また、入居後は本人の希望を取り入れながら、お花を飾ったり、ご家族の写真を飾ったりなど、個々の好みに対応させて頂いている。	使い慣れた家具を持ち込んだり、思い出の写真を飾ったりして、利用者一人ひとり個性豊かな部屋づくりをし、ゆったりと過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の生活空間の随所に手すりを設置し、浴室内の床は滑りにくい材質の物を使用したり、階段にも滑り止めを設置している。各居室の前に表札などの目印を設置したり、トイレの前には表示を大きく、見やすくするよう自立支援にむけた工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O171401151		
法人名	有限会社 ウジヤト		
事業所名	グループホーム のぞみ(2階)		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から19年目を迎えました。昨年同様、コロナ禍での生活は不自由なことばかりでありましたが、感染防止対策を行いながら外出の行事もできるようになってきており、今年はお花見、紅葉ドライブを行うことができました。
ご家族との面会も面会スペースを設け、時間制限等はありませんが直接ご家族と会う機会もあり、ご本人、ご家族共にとっても喜ばれております。
施設で飼っている猫たち4匹も元気です。1匹は16歳の高齢者(猫)ですが、毎日利用者様と一緒に寝て、時には膝の上でぬくぬくと過ごしております。
以前から力を入れ取り組んでおりました、“個別支援”ですが、コロナ禍でもできる何かを考え、再開していきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401151-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の入り口やリビングに掲示し、個々で確認しながら実現に向けて取り組むよう心掛けている。又、毎月ユニット理念(目標)を掲げ、事業所理念と合わせて職員が意識を統一しケアに望めるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ2年程はコロナの影響もあり地域の行事参加は見合わせている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ過にて現在は地域の人々と接する機会が少なくなり思う通りには出来ていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過にて運営推進会議は書面にて開催されており、意見等があれば書面で頂いており活用している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や運営推進会議の議事録を渡し市の担当者に事業所の取り組みなどを報告し、アドバイスを頂きながら取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの禁止行為を正しく理解できるよう定期的に勉強会を行っている。夜間は安全面を考慮し、ご家族からの了承を得て、夜8時以降は施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行なわれているユニット会議で身体拘束について話し合い、合わせて虐待にあたる行為はないか再確認を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関する研修受講はなかなかできていないのが現状です。現在においては制度を活用される方がいない状況ではありますが学器械は作っていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、ご本人や家族にホーム内を見学して頂き、(コロナ過中はリモートにて)理解、納得をして頂けるよう説明をし、契約時には利用料、医療連携体制、入居にあたっての留意事項など、契約書や重要事項説明書に基づき説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に面会時や支払いに来られた時などに、要望等聞いており、月に1度手紙を書き入居者様の様子を報告すると共に、受診報告等電話した時にご家族の要望や意見を話して頂けるような機会をつくり、頂いた意見などはその後ユニット会議などの議題として上げ、改善すべき点があれば速やかに対応できるよう体制をとっている。又、玄関フロア入り口には意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常やユニット会議で意見や提案を聞き、施設長や社長も出席する管理者会議や代表者会議にて提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常的に職員とのコミュニケーションを密に行い、悩みや相談事などを聞いている。内容によっては代表者が入る会議等で報告し解決にむけ取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容を見て職員の経験や力量等を踏まえ研修参加を促したり、本人の希望の研修に参加してもらっている。また、ユニット会議でその時の状況に合わせた勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中数は少ないが研修会などに参加することで同業者との交流する機会がある。他事業所の勉強会へも参加させて頂くことがある。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い本人やご家族に直接会って話を聞かせてもらい、施設の概要などを説明し、どのように暮らしたいかを伺い要望などには応えられる範囲を説明し、不安な事や疑問点については納得できるまで説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、アセスメントと一緒に、ご家族の要望や心配事を聞かせてもらい、一緒に考えていく事で信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約を頂く時点で、お話を伺い、緊急性等の見極めや、待機期間に、どのようなサービスを活用しているか説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、一緒に家事作業等を行い、ご本人が出来る事は積極的に行えるような関わりをし、得意な事などは教えて頂いたり、持ちつ持たれつ関係を築けるよう努力している。又、何かをして頂いた時には、感謝の言葉を忘れずに伝えるよう心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、毎月のお手紙で近況報告を行い、何かあった時は、都度電話連絡をし、問題があれば、ご家族と一緒に考えていける体制を取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ここ2年程はコロナの状況をみて支援を行っている。 ・何十年も付き合いのある理容院に行ったり、来て頂いたり。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さままで行える、レクリエーションや、他ユニットとの交流の場を作ったり、お互い出来る事を行う事で支え合って生活しています。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍もあり、契約終了後は関係がと絶えてしまうことがほとんどです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを取り、本人の意向を把握できるよう努めています。ご家族からの情報も含め職員間で検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、ご家族への聞き取りや、本人からの昔話を通して情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者様の状態観察をし、アセスメントを行い、自立への支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者及び職員は、入居者様が、日々より良い暮らしをして頂く為に、ご本人やご家族の希望収集に努めています。又、主治医からの指示等も反映した計画ができるよう、月末に行うユニット会議で職員全体で話し合いを行いながら作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、介護計画に活かす事ができるよう、各職員が、連絡ノートに具体的な内容を記入し共有しています。又、会議等では、それらをもとに検討し、介護計画に活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の団欒やコミュニケーションの中から、入居者様の希望を聞き出すと共に、ご家族との連絡も密に行い、どうすれば対応できるかを職員間で検討し実行に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への買い物程度の外出はあるが、地域の行事にはここ2年ほど参加できておらず地域資源の積極的な活用はできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医を確認し、協力医療機関等の説明(月1回の内科受診や、皮膚科往診)を行っています。又、利用契約前のかかりつけ医を希望の場合は継続受診ができるよう支援しています。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回、協力病院から看護師が訪問し血圧測定、採血などの健康管理を行っており、その際に入居者様の状態等を伝えアドバイスや受診の指示などを頂いている。又、入居者様の状態に応じた医療機関への受診の支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が決まった際には職員が生活、身体、精神状況を病院側に伝えている。又、定期的に面会に行き病院関係者より入居者様の状態などを確認していたが、コロナ過の中は面会禁止の所が多く面会は出来ていない。早期退院へ向けた相談などをご家族も含め行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「グループホームのぞみ 看取り介護に関する方針」を作成し入居時に説明を行っており、入居時点での御家族の考えなどを聞かせていただいています。又、実際の終末期を迎えられた方への支援として、御家族へ再度看取り介護に関しての説明と同意をいただき、「看取り介護計画」を作成しチーム全体で最後まで安心して充実した日々を送っていただけるよう支援させていただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し全職員への周知を徹底している。AEDの設置(2号館)も行ってます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は火災避難訓練当日に火災があり消防が来れずに自主訓練となりました。地震、水害等に対する訓練は近年では行っていないが、災害や火災時の緊急連絡体制は整え、マニュアルと合わせ日頃からそれらを意識できるよう事務所、リビングと目につくところへ掲示している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者様ひとりひとりのこれまでの生活や思いを尊重し、常に私達の人生の先輩であるという思いを忘れずに日々支援を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者ひとりひとりの心身の状態、想いの把握に努め、やりたい事、希望を話せるよう環境作りを心掛けている。又、訴える事が困難な方には日々の関わりの中から想いを汲み取れるよう努力し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースを把握できるように日々の関わりを大切にしている。また、入所前の生活スタイル、自宅での生活の様子をご家族に伺い、その人にあった生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容などの対応を行っている(玄関前)。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	医療面で食事制限のある方には、本人に説明を行い、納得していただけるよう努めている。また、入居者の出来る事を考慮しながら一緒に食事準備や調理を行い、利用者・スタッフが一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしていただけるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や間食、一日の水分量の把握に努めている。食事内容に関しては献立係りを配置し、栄養のバランスや季節の物を取り入れ日々のメニューを作成している。また入居者一人ひとりの希望を聞き取り、献立に取り入れている。食事、水分量の減少や体重の増減が見られる際は、御家族や医師に相談しながら入居者の状態に合わせ、おかゆ、刻み、ミキサー食等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、定期的な義歯の洗浄にて清潔保持に努めている。また口腔内の異変時には歯科往診に来て頂くなどの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表等を作成し個々の排泄状態の把握を行っている。状態に合わせた誘導や、時間帯での声掛けを行い、トイレにて気持ちよく排泄していただけるよう介護計画を作成している。また、失敗時には本人の自尊心を傷つける事のないよう考慮しながら清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便確認、毎日の体操、個人に合わせて牛乳や野菜、果物、食物繊維の食べ物等排便を促しやすい飲食物を摂っていただいている。又、便秘がひどい方にはかかりつけ医へ相談し便秘薬などの対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後が入浴の時間になっているが、入浴日については利用者様の希望なども確認し、心地よく入浴して頂けるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人や家族から生活習慣(就寝、起床時間や昼寝)を教えて頂き、個々の睡眠時間は職員全体で把握し、不眠の場合はその状況に応じて話を傾聴し安眠できるような促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の「与薬一覧表」を作成し、効能、副作用などの把握に努めている。服薬の際にはスタッフ同士が声を掛け合い誤薬のないよう都度確認を行っている。また、薬の管理も利用者様の手が及ばない場所へ保管し、内服薬の、紛失、誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、それぞれ得意なこと・出来そうなことを観察し、個々の状態に合わせた家事作業やレクリエーションを行って頂いている。また、年間行事予定を作成し季節に応じた行事を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望時(買い物、散歩)には出来るだけ希望に沿えるよう職員間で連携し支援を行っている。現在はコロナの状況も考え支援を行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から希望がある場合はご家族と相談の上、お金を所持して頂いている。買い物の際には、商品の選択やレジでの支払いなどの見守りと一部支援を行いながら、できるだけ本人に行ってもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には、取次の支援や見守りを行いながら、いつでも自由に電話を使用して頂けるよう支援を行っている。手紙に関しては現在のところ郵送の希望者はいないが、ホームに届いた年賀状などは希望があれば本人に読んで聞かせるなどの支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や光の入り方、空調での室温管理など利用者の意見を取り入れ自由に調節できるよう配慮している。また、家庭菜園の水やりや草取り、収穫を一緒に行ったり、リビングの設えに季節を感じて頂けるような工夫をしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの構造上、一人になれる空間はなく、各居室やリビングにある座敷、又は事務所にて過ごして頂いている。また、食卓での座席や、リビングソファで過ごして頂く際には、利用者同士の相性も考慮し安心して頂けるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やご家族と相談しながら、安心してお部屋を使用して頂くためにも、在宅時に使用していた家具や写真などを持ってきて頂き、居心地の良い空間をつくれるように工夫して取り組んでいる。また、入居後は本人の希望を取り入れながら、お花を飾ったり、ご家族の写真を飾ったりなど、個々の好みに対応させて頂いている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の生活空間の随所に手すりを設置し、浴室内の床は滑りにくい材質の物を使用したり、階段にも滑り止めを設置している。各居室の前に表札などの目印を設置したり、トイレの前には表示を大きく、見やすくするよう自立支援にむけた工夫をしている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム のぞみ

作成日: 令和 4年 12月 22日

市町村受理日: 令和 4年 12月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍において、ここ2年ほど運営推進会議は書面開催となっています。質問、要望等を募ってはいますが、今までではほとんど質問等はお受けしたことがありません。	ただ、何か質問、要望などを募るのではなく、施設での困ったことや、何かアイデアが欲しいなど、施設側から投げかけてみる。	質問、要望を募る際に、それとは別に施設で困っていることや何かアイデアが欲しいことなど、具体的な場面などを書き送付する。	12ヶ月
2	49	コロナの落ち着いた頃をみながら、少しずつ外出の機会も増えてはきました。個別支援も行ってはいますが、まだ全体で考えるとまだまだといった状況。	全員の個別支援を行う。	一人ひとりに聞き取りを行い、聞き取りが困難な方にはご家族などにも聞き取りを行い、全員の個別支援を目標に取り組んでいく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。